

YCU 夏季短期語学研修プログラム 派遣学生報告書

氏名	N.M	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	2年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
プログラム名	Summer Language and Culture		
期間	2023年8月7日～ 2023年8月27日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業はプログラム中の平日の午前中に毎日あり、もちろん授業中はすべて英語で話さなければいけないとされていて、日本で過ごしているときとはけた違いに英語に触れることができました。授業では基本的に話し合いの形をとることが多く、授業のほとんどはグループワークで構成されていました。私のクラスではスマホやパソコンといった電子機器は一切使わず、持っていく必要はありませんでしたが、他のクラスでは少し使っていたところもあったようです。授業の内容はカナダ文化に関することが多く、たくさんのカナダ人が毎朝飲んでいるというコーヒーに特化した授業もありました。カナダのコーヒーブランドである Tim Hortons について学ぶことができたり、カナダ人がどれだけコーヒーを愛しているのかというインタビュー動画などを見たり、コーヒーを飲む文化が全世代の人に浸透しているとはいいがたく、日本茶や紅茶など幅広い飲み物をたしなむ日本の飲み物文化との違いを楽しく学ぶことができました。また、ネイティブがよく使う英語表現など普通の授業では習わないようなリアルな生活に密着した英語を学ぶことができ、楽しかったです。さらに印象に残った授業としては恋愛文化を学んだ授業が挙げられます。私のクラスを受け持っていた先生が恋愛の話をするのをとても楽しんでいてたくさん話をしましたが、カナダでの時代による恋愛観や定型的な行動の変化や新しい文化であるマッチングアプリについて各国の見方の違いなどを聞くのがとても面白かったです。他にも日本人が不得手とする"r"と"l"、"b"と"v"の発音の仕方の違いを細かく教えてくれたり、カナダの名所とされる場所やモノを詳しく学んだりする授業もあり、毎日楽しく受けることができました。課題はリーディングからライティングなど様々出されましたが、一番印象に残っているのはインタビューの課題で道行くカナダ人に質問をするというものです。とても緊張して何とかこなしたことも理由ですが、話を聞いてくださった方はどの人も優しくとても印象的でした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

英単語や英語表現など英語にかかわる知識では現地では学ぶことのできないネイティブの方が普段使っている表現であったり、細かな発音の違いであったりを学びました。実際”r”の発音が”l”の発音となってしまっただけで、単語の意味を先生にくみ取ってもらえなかったこともあり、実際に日本人発音に慣れていない現地の先生と話しをすることでしか得られない経験も得られました。また、ビクトリアにいる間に行った方がいい観光地やレストランを教えてもらったほか、日本にはない治安の悪さなどを教えてもらい、ホームレスというカナダが抱える大きな問題について先生方の見解を得ることができました。さらにカナダ文化についてとても詳しく学ぶことができ、(1)で紹介したことのほかにはカナダでよく使われるジェスチャーや失礼とされる行動、カナダ人におけるパーソナルスペースの存在など実際にカナダで暮らす人々からしか聞くことのできない知識をたくさん得られました。また、カナダに関するだけでなく、韓国人のクラスメイトから韓国に関する知識もたくさん教えてもらい、それぞれの文化に対する日本の文化との違いなどを学ぶことができました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は英語を話すことに対して謎の抵抗感があり、英語でコミュニケーションをとりたいと思っていても自分から英語で話すということがなかなかできずにいましたが、この授業で日本人だけでなく異なる文化を持つ人々と交流するにはもちろん英語を使うしかないということや、同じ日本人でも必死に英語を話そうと努力するクラスメイトを見たことでとても刺激を受け、どれだけ自分の英語が拙かったとしてもまず伝えようとする気持ちが大切なのだと悟り、自分から積極的に話すことができるようになりました。また、私のクラスを受け持っていた先生が授業でよく口にしていた「勇気を持ちなさい」という言葉が心に残っており、異国の言葉を話すということはだれにとっても勇気のいることであり、自分だけではないのだと思えるようになったことで、気負うことなく英語を話せるようになりました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

留学に行き、授業を受けたことで今英語に対するモチベーションがとても高く、以前よりも少しは英語を使ったコミュニケーションに慣れることができた状況のため、これを英語をあまり使うことのない日本でも維持していくために、自分からたくさんの英語や他国の文化に触れていく機会を作っていかなければいけないと思いました。留学先では自分から触れに行かずともたくさんの英語に触れることができましたが、日本ではそのような素晴らしい状況はないため、自ら切り開いて今あるモチベーションを0にはしないような努力をしていきたいです。

YCU 夏季短期語学研修プログラム 派遣学生報告書

氏名	K.S	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	2年	派遣国	イギリス
派遣大学	ド・モントフォート大学		
プログラム名	Pre-sessional English Courses		
期間	2023年 8月 14日～2023年 9月 9日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

まず、授業はプログラム開始初日に配られる専用のテキストブックを用いて行われる。内容としては SDGs 関連の社会課題を中心として構成されており、チャプターごとにライティング、リスニング、リーディング、ディスカッションの問題が提示され、4技能を継続して学ぶことができた。毎日の課題としてはテキストと大学側の運営するウェブサイトにて配信される映像資料を用いて次の日の授業に該当するテキストのページを読み、教科書の問題や提示されているディスカッショントピックについて授業でどんなことを話すかを考えるという内容のものが課せられた。また、毎回の授業後には50～100字以内で先生の提示する質問について英語の意見文を描く課題や授業の振り返りについて英語で書くという課題の提出も必要であった。さらに、中間の時期には社会的課題について説明をし、解決策を考えるという500文字程度の中間エッセイが大きな課題として課された。最終週にはライティング、ディスカッション、リーディングのテストが二日にかけて行われた。演習の内容としては課題で予習をした内容を中心にスライドで先生が説明するという構成であり、すべての授業において先生や生徒と相談や話し合いをしながら進むライブ感のあるものとなっていた。先生が高頻度で生徒に質問をし、それについて自由に考え、答えるという英語を話す機会の多い授業であった。基本的には月曜日から金曜日の午前10時から13時までの間、教室に集まり、演習が行われ、曜日によって先生が変わるという方式であった。

印象に残った授業としてはタバコ類や大麻について取り上げた授業が挙げられる。クラスの中には日本ほどタバコ類や大麻の規制が厳しくないという国が多く、他国のタバコ類や大麻に対するリアルな実情や意見を直接聞くことができた。意見の幅の広さに文化の違いを感じるとともに自分の視野を広げることのできる経験を積むことができ、成長できたと大きく感じたため特に印象に残っている。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

まず、授業を通じて英語を話すことに対して自信を持つことができるようになったということが挙げられる。プログラムの開始前や直後は空港の職員やクラスメイトなどに英語を聞き返されることが多く、自分の学んできた英語は間違っていたのではないかと心配になることが多かった。しかし、授業を通じ、それぞれの国の人がそれぞれの発音に癖を持っており、自分の英語の文法や発音が多少違っていても伝えようという気持ちがあれば相手も聞き取ってくれるということを学んだ。この経験から英語を話す際には自信をもって堂々と話しかけることが重要であると学んだ。

また、授業では各段落に書かなければならない内容やその構成だけでなく学術的な文章において適した形に文章を変える方法など英文のエッセイの書き方を丁寧に教えてもらうことができ今後大学の英文レポートやプレゼンテーションの原稿づくりにおいて活用することのできる知識を身に付けることができた。

そして、授業でのクラスメイトや先生との会話を通じて他国の歴史や価値観、文化に触れることは自分の視野を広げ、物事を様々な角度から見ていこうと思うきっかけとなり知識を得るだけでなく貴重な経験をたくさん積むことができたと感じる。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前まで自分にとってライティングはどのように取り組めばよいのかわからない難しいものという認識のものであったが授業を通じて1から学んだことできちんとした下調べと書くことの構成を決めることでスムーズに書くことができるということを知ることができ、苦手意識を減らすことができた。さらに、(2)において前述したように自信を持つことができるようになったということは大きな変化であると感じる。授業を受ける前までは自分の英語が伝わっているのか心配になり正しい文法や発音を心がけるあまり声が小さくなりがちだったが、授業の中で様々な国の英語を聞き、授業を受けた後の今では、まず自分が何を伝えたいのかを明確にし、はきはきと胸を張って会話をすることができるようになった。また、授業を受ける前までは日本語の文章を頭の中で英語に変換していたが授業を受けてからは直接英語で考えて話すというプロセスを身に付けることができたというのも大きな変化である。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

今回の夏季短期留学を通じて得た知識や経験は今後の学校生活において活用していきたいと思っている。講義の中で発言や質問をする際には自信をもって堂々とする、物事を様々な角度から見ようとする事で新しい発見をするといったように、身に付けた力を英語学習以外の勉強にも用いることで自分のスキルアップを目指していきたい。さらに、今回の留学で毎日勉強を続けることが英語学習やその他の学習において非常に大切であるということに改めて実感したため、今後も継続して英語の学習を行い、自分の力を高めていきたいと感じた。また英語力を伸ばしたいのであれば1人で勉強し続けるよりも誰かと協力して勉強をしたほうが続けやすく力を伸ばしやすいということを知った。そのため、今後は英語を話すクラブ活動や英語で行われる授業に積極的に参加し、英語や仲間と関わる機会を増やしていきたいと思う。

